

## カタカナ語の使用は日本語に悪影響なのか

国語班：堀内 千咲 藤野 乃麻 亀田 千晶

### 要約

本研究の目的は、カタカナ語の使用の増加が日本語の衰退を招くということを明らかにすることである。調査によって、人々はカタカナに対して消極的な意見をもっているにも関わらず、実際のカタカナの使用は増加しているということがわかった。従って本研究では、更なるカタカナの使用や浸透は日本語の衰退を招くということが結論付けられた。

### Abstract

The purpose of this study is revealing that the increase of use of katakana words will lead to the decline of Japanese words. The experiment shows that people in Japan have negative opinions for katakana words. However in fact people more often use katakana words than before. This study concludes that Japanese will decline if the katakana words are used and spread more.

### 1. 序論

本研究を始めるきっかけとなったのは、世界的パンデミックを起こした COVID - 19 に関する報道や会見が行われた際、その中で「クラスター」や「オーバーシュート」のようなカタカナ語が多用されたことだ。ここで私たちは日本語で表現することが可能であるにも関わらずカタカナ語が使用されたことに疑問を感じた。また、カタカナ語の使用の増加は日本語に悪影響を及ぼすと考えた。本研究において日本語とカタカナ語は切り離して考え、漢字と平仮名を日本語、外来語などのカタカナで書かれたものをカタカナ語とする。対象とするカタカナは「ポテンシャル」のような日本語とカタカナ語の両方で表記できるものとする。

### 2. 研究手法

- ① 高津高校生 222 人、高津高校教員 21 人を対象にカタカナに関するアンケートを行った。
- ② カタカナについて書かれている評論文や身近にある広告で使用されているカタカナを調べた。

### 3. 結果

高津高校で実施したアンケートで「クラスターが発生した」と「集団感染が発生した」ではどちらの方が分かりやすいか尋ねたところ前者が 60.5%、後者が 39.5%と前者が上回った。

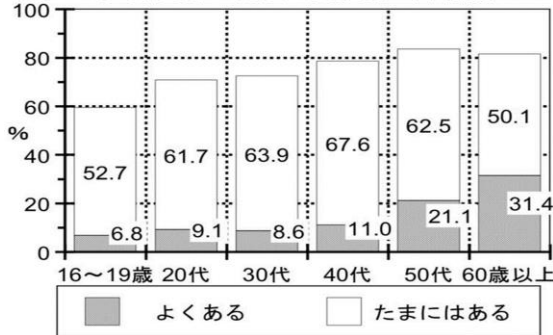
しかし、次の質問「オーバーシュートの可能性があります。」と「感染爆発の可能性があります。」の二つで分かりやすさを尋ねたところ前者が9.5%、後者が90.5%と後者が前者を大きく上回った。同じ新型コロナウイルスに関する質問であるが、結果は大きく異なった。

また、「エスカレート」の意味について「激化する」「発展する」「増加する」「悪化する」の4択で尋ねたところ「激化する」が75.7%「発展する」が4.5%「増加する」が2.1%「悪化する」が17.7%という結果になった。

広辞苑で「エスカレート」について意味を調べてみると、第四版では「拡大・増加すること」だったが、第七版では「増加・激化すること」に変更されていた。このことから、異なった意味が大勢に使われ定着してしまうくらいにカタカナが用いられていることがわかる。

また、参考文献(図1)より、カタカナ語の意味が分からず困るという人は全年代において過半数以上を占めている。2014年には70代男性が、ニュースの中で扱われるカタカナ語の意味が分からず精神的苦痛を受けたとして慰謝料を請求した事例もある。「日常の用語をカタカナ語か日本語かで示したときどちらを使うか」という内容の質問に対する結果を示した参考文献(図2)より、ワインやスーツにおいてはカタカナ語の方が多く使われていることがわかる。また参考文献(図3)よりカタカナ語の使用度が増加したとわかる。「日常生活の中でカタカナ語を交えて話したり、書いたりしていることを好ましいと感じるか否か」という内容の質問の結果を示した参考文献(図4)よりカタカナの使用を好ましいと感じる割合は減少し、無関心な人々の割合が増加したとわかる。

(図1) カタカナ語の意味が分からず困ることがあるか  
「よくある」「たまにはある」(年齢別)



(平成24年度文化庁に関する世論調査)

(図2)

(数字は%, 上段…平成27年度調査結果, 下段…【平成11年度調査結果】)

	(a)を主に使う	(b)を主に使う	どちらも同じくらい使う	どちらも使わない	分からない
(1)(a) ぶどう酒	10.3	82.5	6.2	0.9	0.1
(b) ワイン	<b>[15.3]</b>	<b>[75.6]</b>	<b>[6.7]</b>	<b>[2.1]</b>	<b>[0.3]</b>
(2)(a) 背広	19.8	68.2	11.6	0.4	0.0
(b) スーツ	<b>[34.7]</b>	<b>[52.8]</b>	<b>[12.0]</b>	<b>[0.3]</b>	<b>[0.2]</b>
(3)(a) 台所	55.4	25.3	18.4	0.9	0.0
(b) キッチン	<b>[77.0]</b>	<b>[12.1]</b>	<b>[10.2]</b>	<b>[0.4]</b>	<b>[0.3]</b>
(4)(a) 開店する	39.4	35.2	24.3	1.0	0.2
(b) オープンする	<b>[44.9]</b>	<b>[34.6]</b>	<b>[19.5]</b>	<b>[0.7]</b>	<b>[0.3]</b>

(平成27年度文化庁国語に関する世論調査)

(図3)

○使用度(「使ったことがある」)

ポイント上昇が大きい順	14年度	19年度	差
ログイン	17.0	41.4	24.4
コラボレーション	11.3	35.5	24.2
ウェブサイト	16.2	38.4	22.2
リコール	37.9	55.7	17.8
インフラ	9.5	25.7	16.2
ライフライン	32.4	46.2	13.8
デリバリー	31.3	44.1	12.8
グローバル	27.0	39.4	12.4
リアルタイム	39.5	51.5	12.0
マネージメント	36.6	47.6	11.0

(平成19年度文化庁に関する世論調査)

(図4)

	どちらかと言うと 好ましいと感じる	どちらかと言うと 好ましくないと感じる	別に何も感じない	分からない
平成24年度	9.3	35.3	54.0	1.4
平成19年度	14.5	39.8	43.7	2.0
平成14年度	16.2	36.6	45.1	2.0
平成11年度	13.3	35.5	48.8	2.4

(平成24年度文化庁に関する世論調査)

#### 4. 考察

学校で行ったアンケートにおいて「クラスター」と「オーバーシュート」では同じ新型コロナウイルスに関連する言葉だが日本語とカタカナ語で結果が分かれた。この差は社会での使用頻度によるものだと考えられる。「クラスター」という言葉は集団感染が発生した度にニュースや新聞といった様々なメディアで使われてきた。一方で「オーバーシュート」という言葉は感染が急激に拡大するという特定の状況下でしか使われない。したがって「クラスター」の方が「オーバーシュート」よりも社会のなかで使われる回数が多い。また、本校で実施したアンケートの中の「エスカレート」の意味について尋ねた問題では「激化する」という回答が最も多かったが、広辞苑第四版（1991年発行）では「エスカレート」の意味は「段階を追って拡大・増加すること」であった。しかし、広辞苑第七版（2018年発行）になると「段階を追って拡大・増加・激化すること」と「激化する」という意味が追加されていた。アンケート結果からもわかる通り人々が「激化する」という意味を持って使用したため追加されたと考えた。これらのことからカタカナ語の使用頻度は社会に影響を受けていると考える。

参考文献図1、図4よりカタカナ語は意味が分からない、好ましくないという消極的な考え方の割合が大半を占めているにも関わらず、参考文献2、3ではカタカナの使用率が増えている。これらのことからカタカナに対して人々には意識と実際の使用度の間に矛盾があると考えられる。また、参考文献（図4）の中でカタカナの使用について何も感じないと答えた人の割合が全体の過半数を占め、かつ前年より増加していることよりさらにこの矛盾は開くと考えられる。

#### 5. 結論

人々はカタカナに対して消極的な考えをもっているが、実際の使用度とは矛盾が生じている。かつ、カタカナに対して関心がなくなりつつあるので矛盾がこれからより開く。そうすると、人々は自分がカタカナを多用していることの自覚が薄れてしまうので、よりカタカナを使うこととなる。よってカタカナに取って代わられる日本語が増加する。したがって更なるカタカナの浸透や使用は日本語を衰退させると考える。

#### 6. 参考文献

文化庁（平成14年度調査～令和元年度調査）. 国語に関する世論調査. [https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/kokugo\\_yoronchosa/](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/).

(2021年3月24日)

山口謡司 (2012). 『日本語にとってカタカナとは何か』. 河出書房新社.  
日本経済新聞. (2014). NHK への慰謝料請求を棄却外国語乱用起訴で名古屋地裁.  
<https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG1204C S4A610C1CC1000/>.

(2021年1月8日)